

支那派遣軍總司令部略歴

一陸軍參謀大尉伊藤武男以下六名支那派遣軍總司令部附として服務中の処置ニ一、一
日、送行の爲南京出發上海に待代しありしが復員本部事務兩面掌領の命を受け三、一
日上海港出發同日一五日船内異常なく帰京に上陸し同日業務整理者二名を除き復員完結
し各々帰郷せしむ

人員内訳 將校一 准士官一、 單員四 計六名

部隊行動略

支那派遣軍司令部の一部

乘船地 上海

船名 リバティ ヴォ41号

人員 將校二、准士官一、兵二、備人一八 計二二名

上陸地 博多

昭三二、三、二八 博多港上陸同日復員終了同日召集解除

三二八 高山中尉は残務整理のため復員本部に出頭

三二九 残務整理終了帰郷

中支内 どのノ

部隊略

支那派遣軍司令部の一隊

一、陸軍大尉加藤作次外四名（軍展）付南京、支那派遣軍司令部に於て勤務中の処消費
呂率領の為昭、二、三十日 上海塔兼船、船中興状なし 三、一三 博愛塔に上巻し同日
復員式完了現務整理を復員本部要員通信院事務官大郎清市に依託の上全員帰郷す、

20

部隊行動概況

一、部隊名 支那派遣軍總司令部（一第） 谷口部隊

一、部隊長 陸軍少佐 谷口 兼三郎

一、編成 六、一、二 上海に於て別紙固有部隊別人員表に依り編成す、

一、部隊の行動

昭二一、六、一四 上海上船

昭二一、六、一七 龍興島入港

昭二一、六、二〇 上陸

同日除隊召集解除の残務整理者を除く

残務整理者は六、二二 二日市復員本部着

六、二四 残務整理完了

一、人員の異動

上海着船地司令記に於て陸軍少佐川谷栄次郎は発陸の爲發遣す、

（上海派遣隊に於て処置）

一、人員 部隊長以下四四四名復員を完了す、

部隊略

支那派遣軍總司令部

一、指揮官 高田少佐 (以下三名)

一、上海港出發 五、二〇

一、陸軍島上陸 五、二六

一、後員 式 五、二七 (一〇〇〇)

一、二日市着 五、二八 (〇四三〇)

高田少佐、青木軍曹、吉江軍曹残務整理及後員本部勤務の爲、二日市
支那派遣軍復員本部出張す。 尔后引続き勤務す。

支那の

し

支那派遣軍司令部通信班略

陸軍大誌 三宅 函

日	概	摘要
二、一七	通信班一第帰還のたの南京(三牌樓駅)出發	三宅以下 二二四名
二、一四	上海着才十五兵站宿舍(兵器厂)に入り兼船準備	前之園中尉以 下六名
二、一〇	復員本記要員として將校一、下士四、兵一 概算す	(三一八名)
二、四	將校一胸部疾患にて才一五七兵站病院に入院	中村軍医大尉 (二一七名)
三、四	中心区病院總合にて検査実施、兼船内検査受領	内務十三軍令 才四五号
五	兵一〇一五頃慢性腸炎兼脚氣にて死亡	陸軍一將兵 吉川善松
六	同日兵一胸部疾患にて才一五七兵站病院に入院	陸軍上將兵 岩永嘉市

一三	乘船沢完、同日將校一、復員本部要員下士一 中国の令により残留を命ぜられる者は復員人して十三軍配 返	西尾大尉 一三一四名
三、一五	上海旧市政府跡にて乘船のため後衛受養同日氷軍しと十（一） 〇二〇号）に乗船	新田階種
一六	上海出帆	二七師仰主隊
一七	佐世保港着（上陸）旧針尾兵団に入る除隊召集使軍解除將校 一、残務整理とす、	長石川少佐
二〇	復員式挙行	三宅大尉
二二	残務整理者二日市町より良製作所内復員本所に到着 残務整理終了、三宅大尉召集解除	

支那海陸軍總司令官軍大官成所

目 白	概 要
昭二、三、二二	中華民国江蘇省南京支隊
昭二、三、二一	軍大官成所員全方上海に集結完了將校一、下士官三、兵四〇、傭兵五、計四九名
昭二、三、二〇	待期々間
至、三、二四	上記の向上海に於て乗船待期
昭二、三、二四	待期間に兵一名入隊、同一名退院
昭二、三、二四	乗船
昭二、三、二四	船名 海防艦國後
昭二、三、二四	出帆
昭二、三、二四	上取港 上海港
昭二、三、二六	上陸地 佐世保港
昭二、三、二七	復員式及召集解除
昭二、三、二七	復員式挙行、同日陸軍曹長沢雅臣以下四十三名召集解除職員黒田長太郎以下

昭二二三〇

五名解雇す

残務整理者

陸軍少尉阿世知初雄希岡県二日市町支那派遣軍復員本部に出現
残務整理完了

~10~

1184

軍鳩育成所略歴

月日	概要
昭三、一、一五	<p>南京出發 十六日上海着、梅原小尉以下五十九名 爾後上海に在リて待機全月二十四日 上海港に於て海防艦「國後」に乘船同 日出帆</p>
昭三、一、二七	<p>佐世保上陸 佐世保に於て復員式を行う</p>
昭三、二、八	<p>残骸整理者 梅原少佐、足立曹長の兩名は三日市復員本部に出頭、 召集解除</p>
昭三、二、一	

中国派遣軍刑務所略歴

刑務所長陸軍法務部大尉 加藤七兵衛

月日	概況
昭三、三、三六	刑務所長加藤七兵衛以下一ニヒ名（囚徒五六名を含む）飯饗の目的を以て南
三、二八	京出發、總司令部と分離す、上海着
三、三	總司令部上海派遣隊に於て掌握中の当刑務所勤務の准士官一名曹長一名は当
三、一〇	刑務所上海到着に伴ひ復級す、囚徒一名假出獄同日当刑務所勤務を命ぜりる、第十三軍拘禁所より囚徒八名移送入所
三、一	午白六時三十分頃より同七時に至る間に於て上海江灣鎮才一兵站宿舍より
	徴役十五年囚元陸軍上等兵中山剛雄、徴役十年囚元予備徴陸軍兵校軍曹飯伏 徳衛徳六年囚元陸軍上等兵田村長代、徴役四年囚陸軍一等兵千田政二逃走し たり翌十二日午後頭等附近路上に於て中山剛雄を除く三名は中國軍保衛團に 逮捕拘禁せられ他の中山剛雄右逮捕の際射殺せられたるもの如し本件は中

四五
一
二

國才三才面軍機把處理班に繋風中にして當方に於て之が引渡方交渉せるも早
急解決の爲になきにより上海兼船地司令官法務部長と協定の上下四名の候補
名表在留者名表其の他裁判執行に關する書類及遺留品一切を上海兼船地司令官
拘禁所に移管したり

才六軍法務部より囚徒送還援助の目的を以て陸軍法務准尉田上貞夫以下七名配
張

四四

刑務所長加藤と兵衛以下一四一名（將校一名、准士官、下士官四一名、兵二
八名、軍医八名囚徒五九名）リハナイ型（No. 2）に依り上海出帆

四一〇

捕房上迄

囚徒五九名は直ちに福岡刑務所に頭柄を引渡す

陸軍法務部大尉加藤市法務准尉丹羽静一、陸軍法務曹長小笠原敏雄准事務員
平田玄臣は現務整理者として二日市に至り事務処理に在り四月十六日任務終了
飯還す

支那派遣軍總司令部の一部略歴

陸軍少佐 池田繁俊

月日	概略
昭三、一、一四 二、一、二六	<p>敵戦后南京光華門外築中營に移動し昭和三十二年一月十四日帰還の目的を以て主力と分離し同築中營より上海に向ひ出發せり尔後につける部隊行動の概要左の如し</p> <p>南京光華門外築中營より上海に向ひ出發 上海到着</p>
昭三、一、一六 三、一、九 三、一、一〇 三、一、二二	<p>向才十六兵站勤務隊に假泊す</p> <p>上海港出帆博多港に向う。(Yo子号リバッテリー型)</p> <p>一八〇〇博多入港 (Yo子号リバッテリー型)</p>
三、一、二二 三、一、二五	<p>同船内他部隊より假痘患者一名発生のため博多港内に隔離せる。 (Yo子号リバッテリー型)</p>

~14~

中支以 6

その一

三、二九

博多港上港

昭三、二一四

行動日誌

三、二五

戦時名義処理状況

軍医は侯官以上軍人は全員の戦時名義及文官名義を南京に於て主力と分離する際受領し其の旨異状なし。

昭三、三三三

輸送向に於ける事故

二二日より同日二九日に至る間のボタリバッテリーにて同船同乗の他部隊より軽便橋養生のため博多港内にて隔離せらる。

人員は異状なし。

15~

1189

支那派遣軍野戦鉄道廠略歴

月日	概	要																					
昭一九三〇 三、十五		軍令陸甲才九号に依り支那派遣軍野戦鉄道廠臨時編成下令され 滿州国牡丹江省鉄道才四種隊に於て編成定結す當時の人員左表の如し																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>階級別</th> <th>編成定員</th> <th>編成人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>将軍</td> <td>一七</td> <td>一七</td> </tr> <tr> <td>准士官</td> <td>七</td> <td>六</td> </tr> <tr> <td>下士官</td> <td>四八</td> <td>四八</td> </tr> <tr> <td>兵</td> <td>二六</td> <td>二七</td> </tr> <tr> <td>單張</td> <td>七四</td> <td>七四</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>一七二</td> <td>一七二</td> </tr> </tbody> </table>	階級別	編成定員	編成人員	将軍	一七	一七	准士官	七	六	下士官	四八	四八	兵	二六	二七	單張	七四	七四	計	一七二	一七二
階級別	編成定員	編成人員																					
将軍	一七	一七																					
准士官	七	六																					
下士官	四八	四八																					
兵	二六	二七																					
單張	七四	七四																					
計	一七二	一七二																					
三、三一		編成地牡丹江出發																					
四、三		支那派遣軍總司令官の兼下に入り																					
四、七		中華民國江蘇省南京に到着す																					
四、二十		廠本部を南京に出張す 漢口 北京																					

中文外 6

い その一

七十

昭三三三二八

三、六

三、三五

に漸送処理班を洛漢口へ八月二十三日に設け夫以業務を開始す
洛漢口漸送処理班は英領に移動し
撤収す

軍令陸甲才十九号に依り編制改正下令され

編成完結当時の人員左の如し

編成人員	編成人員	借数別	
		区分	將校
四九	六〇	在士官	下士官
一二	一三	兵	軍儀
八六	九八		計
六七六	七〇六		
六五	二五		
八八四	九〇一		

漢口、北京の出張所は夫々支廠となり亦上海出張所、浦口分館所は夫々出張所となり新たに出張所を蚌埠（三月三十日）、徐州（四月十九日）、濟南（四月二十日）、常州（四月二十七日）に工場班を浦鎮（三月八日）に開設す

停戦後

停戦認習悉布

北京支廠を除く主力は江蘇省浦口に集結完了

昭三三、八、十四
九、十七

昭二〇、二二	〇二、一〇	〇二、一〇、一四	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇	〇二、一〇
<p>中国陸軍總司令部工兵指揮部の指揮下に入り業務を遂行す 北京支隊は北支方面軍司令部の隷下に入る。 敵は内地帰還を命ぜられ残置器材監視の將校以下二十名を浦口に残留し敵 主力は 浦口出發 上海に到着し 上海港出發帰還の途に赴き 博多着 同港に上陸し同日復員を完了す 部隊長 陸軍大佐 村瀬 恒光 陸軍大佐 佐々木 萬之助 復員当日に於ける敵の人員の識別表の如し。</p>																

員 總									
と と の 名									
合 計	表 留 其 の 他 調 査 中	人 陪	職 履	所 任 不 明	生 死 不 明	死 亡	隊 除		区 分
							内	現	
六二七		二五	一一四	一	一	一六	四四八	三三	本 廠
二六二	七	七	三一		一		二〇〇	一六	北 京 支 廠
八八〇	七	三二	一四五	一	二	一六	六四八	三三	計
		係者に通信調査中なり。	及入陪患者（甬蚕）の如き目下附	ニ、調査中の七名は現地解任在籍の軍医	類との照合上記区分計上せり。	を以て主力（本廠）の復員関係者	人員の関係書類は既に提出済なる	一、北京支廠は昭三、ニニ九復員し当務	摘 要

～ 9 ～

1193

南京陸軍兵事部略歴

月日	概略
昭三、八、三〇	<p>臨時編成下令に依り、南京陸軍兵事部編成完結</p> <p>初代兵事部長 陸軍大佐 大島要八 命課せらる。</p> <p>創立 岡 中支那在留在留軍人（将官を除く）の服役召集、中支那在留軍人の終戦 徴兵身体検査少年諸学校生徒の召募業務に從事す。</p> <p>昭三、七、三〇 二代兵事部長 陸軍大佐 佐田 勇</p> <p>昭三、六、一五 内地帰還の海南京出港同日上海着</p> <p>昭三、二、二二 上海港出港同日二六日 蘇州府上陸 同日復員式終了</p> <p>復員当時の人員左の如し</p> <p>将 校 三</p> <p>下士 官 四</p> <p>理事官 一</p>

中支外

い

その一

		判任文官	二
		舊備人	九
	共		
	十九名		

目次

し

よ

-21-

1195

第二十軍 甲憲兵隊 略

月 日	概 要
昭五、六、二五	<p>一、軍令陸甲字四十四号に依り中支湘漢鐵道憲兵隊編成改正 一、昭一九六、一五編成着手六、二〇中華民國湖南省岳陽に於て編成完結 二、憲兵隊長陸軍憲兵中佐 北川三郎以下 將校五名 下士官五八名 兵九九名、軍属九名</p>
昭五、七、二七	<p>一、甲憲兵隊は才十一軍司令官の指揮下に入る。</p>
昭五、七、一四	<p>一、中華民国湖南省長沙に移駐</p>
昭五、九、一	<p>一、中支湘漢鐵道憲兵隊より補充要員として將校二名、下士官五八名 兵二〇名 載入</p>
九、九、一〇	<p>一、甲憲兵隊は才十一軍司令官の指揮下のまま才六方面軍司令官の指揮下に入る。</p>
一〇、一	<p>一、甲憲兵隊は才六方面軍司令官の直接指揮下に入る。</p>

昭五二八

一、甲憲兵隊付才二十軍司令官の旨準下に入る。

九二五

一、中支那派遣憲兵隊より補充要員として憲兵候補者一四名転入

二二六

一、中支那派遣憲兵隊より補充要員として憲兵下士官候補者三十六名転入

一三一

一、中支那派遣憲兵隊乙憲兵隊より補充要員として

將 校 三名 下士官五十四名軍医八名転入

一三五

一、中華民國湖南省衛衛場に移駐

二〇六

一、中支那派遣憲兵隊下士官要員として下士官三名、憲兵候補者四〇名

転入

昭五二六
至昭二五、三〇

一、本期同本邦を岳陽、長沙、新陽に位置センメ湖南省長沙、同湘陽同衛
山同衛場同定慶同湘陽同湘陽同未陽同湘陽同醴陵同株州に夫々憲兵派遣
隊並分遣隊を設置す。

昭二〇、六、一〇

一、中華民國湖南省衛衛場山東南岳市ニ憲兵教育隊開設隊長 加藤民時、八一六附

嶺

一、停戦の詔書発布

八二四

昭二〇、八、三四	一、中華民国湖南省長沙に集結 尔後同日の向各激進隊長沙に集結
〃 八三〇	一、南岳市下於て教育せる憲兵兵隊候補者一九七名募入
〃 一〇、一	一、湖南省長沙泉橋頭に集結中す
〃 一三、一	一、才一師團才一兵站司令部より軍医將校一、紅生兵一、才一八四兵站病院より紅生兵一募入
昭三、五、一〇	一、隊長北川中佐中国側に戦犯容疑として召喚さる
自昭三、九、一	一、刑執行停止者六〇名募入
至昭三、五、三〇	一、復員のため上海に向け乗中撤出終
昭三、五、二一	一、上海到着
〃 六、三	一、處刑者六〇名電信才五連隊に転属 (次員転出者中に含む)
〃 六、一三	一、隷属將來以下八二名(含む昭一)
〃 六一五	

昭三、六、一五	一、職歴將校以下八二名（含入隊一） 才六十四師団に職歴（次頁振出者に含む）
昭三、六、二七 迄	一、戦死者 准士官以下 五五名 准士官三名、下士官二五名、兵三五名、單級一 二、戦死者將校一名、下士官一八名、兵一四九名 三、現地補明者 准士官以下一一名 四、現地解備者 八名 五、内地帰還人員 准士官以下二三名 六、入隊患者 一七名
昭三、七、五	岡田軍医大尉以下三四九名、上海港出発 將校二、下士官二六、兵三一四、軍医七
昭三、七、三	内地浦領上陸
昭三、七、五	除隊召募解除
昭三、七、一五	兵力在の如し七四六名にして内地
昭三、七、一五	級置人員其の他内訳在の如し

イ内地区隊名	三七二名
ロ現地区隊	一九名
ハ私	五八名
ニ入	一八
ホ戦	一六三名
ヘ生死不明	自心
ト残	一一六名
計	七四六名

~26~

中支大 9

保定騎部候補生隊略歴

昭三、八、二〇

編成完結年月日及位置
河北省保定軍官学校

編成

本部

歩兵隊

本部

六ヶ中隊（一、三、四、五、六中隊）
四中隊、五中隊、六中隊（通信）

砲兵隊

本部

三中隊（一中隊、野砲十榴、二、三中隊山砲）

輜重兵隊

昭三、六

歩兵中隊を左の如く増設せらる。

十中隊（一、七中隊一、八中隊、九中隊、十中隊歩砲、十一中隊に通信）

<p>白昭一六、八 至一、五、四</p>	<p>兼原若揮関係 支那派遣軍直轄、教育に關しては支那派遣軍北支方面軍の指揮を受く</p>
<p>自昭一五、四 至一、三、七</p>	<p>支那派遣軍直轄</p>
<p>自昭一五、七 至一、五、八</p>	<p>北支那方面軍の指揮下に在る</p>
<p>昭一五、八</p>	<p>敵軍第三師團長の指揮下に在る 復員營長 敵軍第三師團長 現駐隊長 陸軍少將 伊藤義彦</p>
<p>昭一六、八 一、三、五</p>	<p>行動の概略 一、六、七、八、九、十、十一、十二、十三 明歩砲、輜重兵科甲種銃兵候補生を教育中 兼せしむ</p>
<p>昭一六、九 一、八、三</p>	<p>一、十三 明甲種銃兵候補生を教育中、ソレ、陸軍の訓練隊出雲に伴い 全部隊を以て北支那八達鎮附近の要衝を確保し平津地区に進入する、ソレ、蒙</p>

中支外

その一

昭三、六、一五	<p>軍及共匪を掃止すべし命を受け一四日同形に到り防禦陣地を構築警備に從事す。</p> <p>終戦詔勅發布後も引続き前任任務執行</p> <p>附教育の身分道中の幹部候補生全員当隊ニ整頓せしめらる。</p>
昭三、九、一〇	<p>幹部候補生の教育中止全員予備役用曹を命ぜらる。</p>
昭三、一〇、一〇	<p>北支那勤務に復出せる者四十九名当隊に整頓せしめらる。内三名当隊より更に原形整隊独立歩兵才五大隊に転属す。</p>
昭三、一〇、三二	<p>中国軍才九十回師警備交代北支那昌平県南口兵營に集結</p>
昭三、一〇、三二	<p>砲兵隊及歩兵隊才十中隊（歩砲）は砲兵隊長小鷹中佐之を指揮し別命統ね昭二、三、四日頃迄一ある迄午回師長の指揮に入り残留、警備に從事す。</p>
昭三、一〇、三〇	<p>歩兵隊長山岸中佐以下、南口出發、豊台に集結十一月二十八日接收の爲の所要人員を残留し八百三十一名豊台発天津に集結</p> <p>天津省瀋石よりLSTに乘船十二月五日佐世保着</p> <p>左記残務整理者を除き除隊</p>

一三、一八	除隊 歩兵隊長 山岸中佐
一三、九	除隊 同 副官 米田大尉 同 書記 佐藤 曹長
一三、二八	部隊主力、豊台乗結完了
一三、二九	豊台及北平に於て接收
一三、三〇	部隊長伊藤少将以下将校出、下士等四、兵五、北支那方面軍司令官より特別任務を受け豊台に渡出勤務す。 (昭和二十一年三、四月頃迄の予定)
一〇、三〇	部隊副官三好少佐以下一〇〇〇名、豊台を天津に乘結、天津港同日LS Tに乘船、塘沽港
一三、七	佐世保上港
一三、八	我初巻疑着二名(天津に抑留)及左記残務整理着を除き除隊
	部隊副官 三好少佐
	本部書記 増田准尉
	後頭本誌に執筆同 赤石准尉

比支四ノ

ヤの

一三、一七	十三月十九日除隊 同 同 同 同 同 同 同	冲山准尉 杉浦軍曹
一三、一七 坂大尉以下三十四名 佐世保港上陸十名曰左記我務整理者を除き除隊	上田准尉	
一三、一六	現在迄に於ける帰還人員 山口中佐以下八一九名	
一三、一八	三好少佐以下九九八名	
一三、一九	瀬上尉以下三四名 一八五二名	
炭柳苗人員 天津に戦死者として抑留せらるる者		
一三、二〇	岡本少佐、松本大尉	
一三、二一	伊藤、飯塚中尉	
一三、二二	松田軍医大尉 計五名	
	中国人帰国しST担任生勤務要員として外出担任生曹長	

豊台残部部隊長 伊藤少将以下 一三名

八幡嶺残部砲兵隊長小澤中佐以下 四一六名

近く豊台に集結同地警備に任する予度ありと、

(十一月十九日堀大尉より)

豊台ニ男子被身軍属 六八名

北京西郊に軍属、同家族 七五名

被身軍属は近く天津に集結帰還予度

家族残行軍属は北支那方面軍司令部に於て取纏め帰還せしめらるる者なり

現在既に帰還せる部隊所屬入院患者 一〇〇名

部隊創立以来の死没者 一一名

離隊逃亡者 五五名

以上昭ニロ、一三、ニロ日に於ける状況

カ
ト
リ

五

カ
リ

五

昭三〇八二三

編成完結年月日及位置

河北省保定四軍官学校跡

編成

保定特設候補生隊

本部

歩兵隊

本部

十中隊(一、七中隊一級、八中隊又、九中隊様、十中隊歩砲

十一中隊榴砲)

砲兵隊

本部

三中隊(一中隊野砲十榴、二、三中隊山砲)

輜重兵隊(自動車及騎馬)

教員、指揮員係

支那派遣軍直轄、教育に關し北支那方面軍の指揮を受く、

自昭一六、八
至一九四

白昭一九四 至二〇七	白昭二〇七 至二〇八	白二〇八 至二〇八	白昭一六八 至二〇五	昭三六 より 八、一四
支那派遣軍直轄	北支那方面軍の指揮下に入る	戦車才三師団長の指揮下に入る	復員管理官 戦車才三師団長 魂部隊長 陸軍少将 伊藤義彦	行動の概要
<p>才六、七、八、九、一〇、一一、一二期歩砲輜重兵科甲種幹部候補生を教育卒業せしむ。</p> <p>才十三期甲種幹部候補生の教育を実施中。ソ、連邦軍の演習家方面出張に伴い教育を中止し。</p> <p>蒙古連合自治政府ハ陸境に到り準備中。戦況悪化。昭三六右も前任務を続行主として</p>				

昭三六

昭三六

<p>四三、九一 九一〇</p>	<p>共産軍の平津地区進出を拒止 附教育の爲当隊に分遣中の幹部候補生全員当隊に転属せしむる。 附幹部候補生を免せしめ予備役軍曹に任せしむる。</p>
<p>三〇、一〇、三〇 三〇、一、三二</p>	<p>北支那刑務所仮出獄者四九名当隊に転属 中園軍才九十四師と警備交代協次南口及豊台に乘結 但し砲兵隊歩兵砲中隊は砲兵隊長之を指揮し九十四師兵の指揮に入り警備總 行。</p>
<p>二一、三八 三九 三〇</p>	<p>郭隊主力豊台集結 隊改</p>
<p>一三五 一三八 一三七 一三六 一三七 一三七</p>	<p>内地帰還状況 山岸中佐以下八一九名、佐世保上陸 隊 三好少佐以下九九七名、佐世保上陸 隊 瀨大尉以下三四名、佐世保上陸</p>

~35~

昭三三三九 〇二二一九 〇一三三〇 〇一三二六	<p>除 隊 芝居兼務手以下五三名、佐世保上陸 除 隊 砲兵は小幡中佐以下三三名、佐世保上陸除隊 帰還者總計 三三九六名 帰還除隊</p> <p>我 留 豊台勤務隊 伊藤少將以下 一〇名 (在豊台) 家族總行軍員 大塚辰以下 三八名 (在北平西郊) 坤 留 磯谷忠親 (在天津北支那方面軍連絡部) 岡本少佐、松本大尉、伊藤中尉、飯塚中尉、松田軍大尉 森中尉、高橋中尉、高橋少尉、軍医岡本雇員以下一三名 計二〇名</p> <p>△△△衛生勤務要員として同様に 坂本(軍)中尉以下 十二名 計三三名</p>
----------------------------------	--

口長木ノ

ヤリ

	<p> 陣亡行衛不明 沼崎少佐以下 五五名 入隊者 一四七名（内軍医三名） 死没者 部隊創立以來 十名 （留守名簿登録昭二〇一月以降三名） </p>

保定幹部候補生隊略歴

陸軍少尉 伊藤義彦

月日	概要
昭三、八、二三	<p>編成完結年月日及位置 中華民國河北省保定</p> <p>編成</p> <p>保定幹部候補生隊</p> <p>本部 步兵隊 十中隊 (一、七中隊一隊、八中隊欠、九中隊附、十中隊歩砲、十一中隊通信)</p> <p>砲兵隊</p> <p>本部 三中隊 (一中隊野砲十榴、二、三中隊山砲)</p> <p>輜重兵隊 (自動車及輜重)</p> <p>報務、指揮關係</p>

支那

自昭天八
至 五、四

自昭三、七
至 二、八

自昭三、八
至 同

自昭天、八
至 二、五

昭三、六、七

昭三、九、一
昭三、五、三

支那派遣軍面長

北支那方面軍の指揮下に入る

戦車第三師団長の指揮下に入る

復員管理官 戦車第三師団長

行動の確保

才六、七、八、九、十、十一、十二期歩砲、輜重兵科、甲種幹部候補生を教育卒業兼せしむ

才十三期甲種幹部候補生の教育を突極中、ソ連那軍の滿鮮蒙方面出陣に伴い教育を中止し八月一日蒙古聯合自治政府宣化省延慶県八達嶺に到り警備終戦詔書発布後も前任務を続行主として共産軍の平準地区進出ヲ防止

附教育の爲当隊に分遣中の幹部候補生全員当隊に転属せらる

北支那刑務所仮出獄者四九名当隊に転属

~39~

1213

昭三、一〇、二〇	北支那刑務所仮出獄者四十九名当隊に抵着
一三、二一	中国軍九四師と警備交代隊次南口及豊台に集結 自し砲兵隊歩兵砲中隊は砲兵隊長之を指揮し十二月十一日返四師長の指揮に 入り警備緒行
一三、二八	部隊主力豊台集結
一三、二九	接収
一三、三〇	部隊長 伊藤少尉以下九名 豊台勤務隊勤務 内地帰還状況
一三、三三	山岸中佐以下八一七名、佐世保上陸
一三、三六	除隊
一三、三七	三好少佐以下九九七名、佐世保上陸
一三、三八	除隊
一三、三九	砲大尉以下三四名
一三、四〇	除隊

コエト又

I

と

昭三三三一九	芝居兼務手以下五三名、佐世保上陸除隊
〇一三二〇	小鷹中佐以下三三二名、佐世保上陸除隊
〇一、一六	軍医大塚真以下二九名、佐世保上陸除隊
〇三二〇	戦犯若狭押留者及しゝ丁勤務者岡本少佐以下三二名、佐世保上陸除隊
〇三二五	現地除隊
〇三三一	金野少尉以下六三名
〇四一〇	部隊長 伊藤少将以下二一名、佐世保上陸除隊 復員完結 残留者 軍医九名

	<p>其の他</p> <p>1. 離職逃亡行跡不明者 沼崎少佐以下五十九名</p> <p>2. 入院患者 一四五名 内一四四名 昭二、三、三一日迄に内地復帰及内地除隊</p> <p>3. 死 没 部隊創設以来 一〇名</p>

~K2~

中支那野戦補充馬廠徐州支廠

月、日	概況
昭三、三、一八	<p>終戦前状況 部隊は才十三軍作命に基き、中華民国江蘇省鎮江中支那野戦補充馬廠に於て編成定結</p>
四、一	<p>以降中華民国徐州に於て解散、尔後同地に於て業務を開始、補充馬の保存、管理交付、業務に彼事終戦と同時に停止せり。 部隊人員は支隊長以下八〇名を以り、六月本廠の奨励出張解散並に人員疎勤に伴い長以下六四名に減少せり。</p>
八、一五	<p>終戦後の状況 終戦に伴い、才六十五師団長管理のもとに終戦及復員業務処理に任じ、</p>
一〇、一三	<p>同地の才六十五師団補給廠内に留置地を転移し復員業務に從事し</p>
二、二〇	<p>歩兵才七一旅団長の指揮下に入り帰還行動を準備し</p>

昭三三三三
昭三三三九
四、一

徐州出船鉄道に依り連雲に到着尔後同地に在りて兼船を待候し、
兼船

佐世保に上陸復員を完結せり、

人員の状況

久病患者

一名

生死不明者

なし

死亡者

なし

中
文
本
は
別
紙
に
掲
載
す

中支那野戦補充軍廠略歴

月 日	概 要
昭四、七、三一 九、一四	<p>部隊は、軍令陸軍令三十一号に依り南京に於て編成完結と共に支那派遣軍の款下に入り本廠を南京支廠を漢口に開設しヤ十一軍司令部の指揮下に入らしめらる。</p>
九、五、九	<p>南京本廠は鎮江に移駐し同所に於て業務を開始す。</p>
昭六、七、一〇	<p>嘉兴に支廠を開設しヤ十三軍司令部の指揮下に入らしめらる。</p>
六、	<p>漢口支廠は現態勢の依り武昌に移駐同所に於て業務を開始す。</p>
昭六、七、一	<p>本廠は現駐地に於てヤ十三軍司令部の指揮下に入らしめらる。</p>
昭三、三、	<p>嘉兴支廠を撤去し本廠に復帰せしめらる。</p>
九、三、二五	<p>ヤ六方面軍野戦補充軍廠編成に伴い武昌支廠は人員馬匹開放共同廠に転属せしめらる。</p>

昭三六二九	中支那軍馬防変隊は人員費共々に本隊に転送せしめりる。
イ	上海に軍馬防変隊出張所を開設す。
リ八二五	現態勢の修才大軍司令官の指揮下に入り
九一	才三師団長の指揮に入る。

46

中支那野戦補充馬廠設廠略

月 日	概 要
昭和三十九	<p>(主力は中支那野戦補充馬廠上海出張所要員とす)</p> <p>部隊長 廠長、中支那野戦補充馬廠 陸軍大臣 佐野武雄 出張所長 上海出張所長 陸軍大臣 野中進</p> <p>部隊編成の状況 中支那野戦補充馬廠上海出張所は、中支那野戦補充馬廠上海支隊にして 同廠復員の上当廠に転強し未れる際該支隊を其の終の編成にて当廠上海出張 所として同地に於て引継ぎ服務せしめありしものなり。</p> <p>本年一月末当廠江本廠上海集結の際、該出張所へ中国外三方回軍管理に 留用せられ、復員不可能の爲本廠より佐野大佐以下八名規留せり。</p> <p>行動の概要 該出張所は旧中支那野戦補充馬廠上海支隊として上海周辺軍用動物伝染病防</p>

中文以外

い

その一

昭三三三
六

遇ニ任シアリシモ終點自昨ニ〇年一〇月より中國ヲ三方通單乘馬ニ〇〇頭を
 出張所内に於て飼養管理アリたり
 所在場所 上海市中心区大八丈
 乗船日時地名 上海
 上陸日時地名 福岡

中支那野戦補充馬板才一次復員輸送隊略歴

陸軍少佐 須藤 菱 伸

日 日	昭三、二天
概 要	<p>中支那野戦補充馬板才一次復員輸送隊は、予三師團の命により汽車輸送を以て部隊長以下全員上海浜松に集中策取を待機中なりし処本隊上海出張所の牽強不能並女子軍醫の乗船不許可のため部隊長以下七三名は上海に滞留することになり決然し須藤少佐は將校以下五二〇名を指揮シテ一次復員輸送隊を編成す。</p> <p>部隊編成表</p> <p>輸送指揮官、陸軍少佐 須藤菱伸</p> <p>副 官、大尉 高城健夫</p> <p>同、丸井惣吉</p> <p>外 將 校、二十六名</p> <p>准 士 官、六名</p> <p>下 士 官、一〇一名</p> <p>兵、三〇六名</p>

軍 艦 七九名

総計 五三一名

乗船前後の状況

田三、一、三三
部隊は編成を完了し乗船準備を実施中。上海四市政府に集結を命ぜられ、私物検査を終了、

リ、一、二五
L.S.T.才六五四号に乗船せり同船せる部隊は才一六一飛行場大隊、中支那獣医部下士官候補者教育部にして船舶衛生検査官は才一六一飛行場大隊長岡崎四郎存り、

出港並到着上陸時の状況

昭三、一、二五
乗船と共に上海飯田棧橋を出港

リ、一、二八
午後在せ保港に到着同日上陸を完了せり。

乗船同米国船員による強盗行為の被害を除くの外は全員極めて元気旺盛なり。復員時の状況

昭三、一、二八
上陸直前に着検査を終了全員南川崎海兵団兵舎に集結、復員諸手続を完了
リ、一、二九
須藤少佐は復員式を挙行左記残務整理者を除く外全員二九、三十兩日に分り

夫々帰郷地に分擔せり

左 記

陸軍大臣

高

城

輝

夫

陸軍少将

原

田

敏

行

陸軍少将

根

本

重

一